

フォトエスノグラフィー

平成 24 年 1 月 17 日
アジ太 M1 山本絵麻

「看板で見る西淡町の宿泊施設と現状」

兵庫県南あわじ市西淡町は第一次産業従事者が 1480 名（20.8%）、第二次産業従事者が 2487 名（35.0%）、第三次産業従事者が 3136 名（44.2%）の町であり、玉ねぎや瓦づくりを生業として人々が生活をしている。（西淡町のあゆみより：平成 16 年のデータ）

サービス業に従事している人も少なくないが、たまねぎ農家の男性 2 人にインタビューしたところによると、観光資源はたまねぎ・瓦・慶野松原以外はほとんどないらしい。観光産業の中でも宿泊施設は町の形成を考える際に形成史には載らない独自の歴史を所有している場合も少なくない。西淡町では今現在どんな宿泊施設があるのだろうか。

また、ここでは西淡町の宿泊施設が点在する地区を慶野松原地区・湊地区・湊港地区に分けて考察していきたい。

現在慶野松原は多くのホテル・民宿が立ち並び、主に西淡町外の観光客の誘致に力を入れていることが看板からも見受けられた。さらに湊地区は地域密着型と言える営業形態であり、湊港地区は廃業した旅館が多く存在する。

これらのことも検討しながら西淡町における宿泊施設の状況を見ていく。





上：西淡町と書かれた消火栓はとても年季が入っている。

下：ポイ捨て禁止を推奨する看板は西淡町舎のすぐ隣に掲げられている。

・名勝 慶野松原

古くは「万葉集」に詠まれた風光明媚で知られた景勝地。南北に広がる美しい砂浜は「日本の渚百選」「快水浴場百選 特選」「日本の夕陽百選」に選ばれ海水浴客でにぎわう。

ここは西淡町の北東部であり、慶野松原を抜けると洲本市五色町に隣接している。主に海水浴を目的とした観光客が多く、西淡町中心部とは少し違った様相をみせる。西淡町民はこの慶野松原のすぐそばにある宿泊施設で働いている人も多く町の一部でありながら観光区域というような認識をされている。





慶野松原周辺の宿

・アイランドホテル

・サンセットビューホテル けひの海



・慶野松原荘



うずしお温泉組合公式サイトでは伊畏地区の温泉は 5 つあるとされており、各施設の分類は違うが温泉として登録されている。

・うずしお温泉施設一覧（伊畏地区）

旅館	アイランドホテル	慶野松原	2名 15900 円～
			VIP ルーム 23250 円～
国民宿舎	慶野松原荘	慶野松原	2名 9750 円～（素泊り）
ホテル	けひの海	慶野松原	2名 18000 円～
民宿	花円	湊	2名 16800 円～（一泊二食付き）
立ち寄り湯	ゆとりっく	湊	大人 600 円 子ども 300 円

内観（じゃらんの各施設のページより引用。）

・けひの海

・慶野松原荘



★ゆとりっく（立ち寄り湯）



- ・ 暴力団関係者等お断りの看板の意味は…

湊地区の宿泊施設



左：花円旅館の近くのスナック。旅館に泊まる人はここに立ち寄るのか。

右：西淡町役場の来客などが泊まる一番ホットな宿泊施設。

うずしお温泉組合の HP によると、花円旅館は温泉であり、泉質はナトリウム-炭酸水素塩低温泉（平成 14 年 3 月より）とされている。営業形態は民宿であるが地域の人々に花円「旅館」と呼ばれるのはこの影響かもしれない。

・湊港地区の宿泊施設

清水屋



旅館代々木



左：廃業してもなお地域の人から清水屋旅館の愛称で呼ばれている清水屋

右：こちらも現在廃業したという旅館代々木。二階は宴会場かもしれない。

昔湊港がまだまだ栄えていた頃一番の旅館だったという清水屋。湊港地区は労働者の町として栄えたという歴史的経緯を持っており、それに伴って旅館や民宿などの施設が現在よりも多く存在していたと考えられる。

清水屋の写真では二階部分の宴会場と思われるところが確認でき、海に面した宴会場で夜は窓を開けて宴会が行われていたのではないかと考えられる。

また、近所に住む女性の話では清水屋は現在廃業されており経営者家族は福良に生活の場所を移しているとのことである。さらに現在の建物では公文式の塾を経営されており、週に3回ほどこちらに来て指導を行っている。

